

## 1/21 “昔ばなし”は人生の道しるべ 鮎貝小学校でおはなしの会

鮎貝小学校4・5年生の児童たちはこの日、町内在住の井上眞理子さん（荒砥甲）、鈴木悦子さん（浅立）、岡田美和子さん（浅立）によるストーリーテリング（読み聞かせ）を体験しました。

2年前に神奈川県から移住してきたという井上さん。「昔ばなしは、人生で困ったときや辛いときの道しるべになることがあるんです。なので、子どもたちにはたくさんの昔ばなしを知ってもらい、自分の財産にしてほしいと思います」と語り、日本や海外の昔ばなしを児童たちに披露しました。児童たちは、とても興味深そうに聞き入っていました。



優しい声で児童に語りかける井上さん

## 1/28 紅花総合学習、最後の取り組みは… 荒砥小学校で紅花染め

荒砥小学校3年生の児童たちはこの日、紅花総合学習の最後の取り組みである紅花染めを体験しました。

染料には、児童たち自ら栽培した紅花を使っています。小松織物工場の小松寛幸さん（十王）のご指導のもと、木綿のハンカチを手に取り染め方に取りかかる児童たち。輪ゴムと割りばしを使い、さまざまな模様をイメージして作業をすすめ、オレンジ色の液体に浸したハンカチが赤く染まると児童からは歓声が沸きました。最後は、冷水で洗い流し、ハンカチを広げると、素敵な模様が浮き上がり、とても嬉しそうな表情を浮かべた児童たち。自ら育てた紅花が作品となって形に残り、大切な記念品となったようです。



- ◀冷たさに耐えながら、念入りに色付けをする児童たち
- ▼ひとりひとり違った模様の素敵なハンカチが完成しました



## 1/28 認知症の方に寄り添える人になろう 白鷹中学校で認知症サポーター養成講座

白鷹中学校ではこの日、2年生の生徒を対象に、認知症の正しい知識と理解を深め、地域を支えていける人を目指す取り組みとして認知症サポーター養成講座が開催されました。

この講座では、生活支援体制整備協議体委員会の方々と町の保健師より、紙芝居と認知症の症状や治療法などを学習。認知症に気づいてあげられる家族の関わり方や認知症の方が暮らしやすい地域づくりについて理解を深めました。受講した生徒からは、「認知症についてたくさん学ぶことができた。これからは認知症の方に寄り添っていきたい」との声もあがり、地域を支えていく一員となる意気込みが感じられました。

- ▶真面目に取り組み、認知症に対しての理解を深めました
- ▼保健師による講座の説明



# TOPICS

トピックス

&

まちのホットな話題  
をお届けします！

スポーツ

# SPORTS

## 1/14 良質な綿が取れました 蚕桑小学校で真綿取りを体験

蚕桑小学校3年生の児童たちはこの日、自分たちが飼育してきた蚕の繭を使い、真綿取りを行いました。

蚕桑地区蚕飼育指導者会（新野孝一会長）の皆さんの指導のもと、1時間ほど煮た繭を冷水に浸しながら繭を広げ、さなぎや脱皮殻などを取り除き乾燥させる作業を行いました。体験した児童たちは、「真っ白で綺麗な綿が取れました」「とてもやわらかく、伸ばすときに破れないか心配だったけど、上手にできたと思います」と時折笑みを浮かべながら作業に没頭していました。

今回収穫した綿は、乾燥したあと紬取りに使用します。6月に蚕を迎えて始まった養蚕学習もいよいよ最終工程へと進みます。



綺麗な真綿が取れたと笑みを浮かべる児童たち

## 1/18 2年ぶりのスキーに大喜び！ 町内各小学校でスキー授業

1月中旬から下旬にかけて、町内の各小学校ではスキー授業が行われました。

毎年開催されているスキー授業ですが、昨年は記録的な暖冬の影響で深刻な雪不足となり、スキー場が閉鎖されたため開催できませんでした。今年は一転して大雪となり、スキー場も無事にオープンしたため、2年ぶりに開催することができました。各グループに分かれ、指導者の方々に上手に滑るコツを教わりながら何度も練習を繰り返す児童たち。久々のスキーに少し不安があった児童もいたようですが、慣れてくるとスピードもどんどん上がり、風を切って滑走する爽快感を楽しんでいました。



上手に滑るコツを学ぶ児童たち（鮎貝小学校）